

♪ 鶴見アコーディオンクラブ「早春コンサート」 ぶらり訪問記 ♪

2019年2月17日(日)14:00 開演 鶴見中央地域ケアプラザ



この時期にしては暖かく出かけるにはありがたい1日でした。

鶴見アコーディオンクラブは紹介する機会が少ないので、皆さんが演奏したプログラムをちょっと紹介します。指揮：森陽介講師【合奏】最初が「シャルウィダンス」、最後は「マゼ

ッティタンゴ」と「イエスタデー」

【独奏】は8名。演奏曲は「スウェーディッシュ ラブソディー」「チロリアンワルツ&ムーンリバー」「金と銀」「ラルゴ」「Autumn Leaves」「想いの届く日」「ケ セラ セラ」「コラソン デ オロ」

【重奏】は「茶色の小びん」「フォレストフラワー」「パルティエーダ～コーヒールンバ」

【ゲスト演奏】地元で活動している「ウォーターロードシンガーズ」による男声合唱でした。

コンサート会場は、みんなが日ごろ練習している場所ということで和やかなコンサートでした。



♪ 音楽センターアコーディオン科南部教室「スプリングコンサート」 ぶらり訪問記 ♪

2019年3月17日(日)14:00 開演 川崎市総合自治会館ホール

今年は桜の開花が早まりそうだとのニュースにちょっぴり期待をしていたのですが、つぼみの先がピンクに染まっていたものの開花には一週間早かった。会場の脇にはニカ領用水があって開花時期と重なると素敵な場所なのです。以下は演奏した曲の紹介です。写真は「いつも何度でも」演奏の様子、指揮は稲葉由理子講師。【合奏】オープニングが「椰子の実」(木下そんき編曲)、エンディングは「いつも何度でも」【独奏】は12名(全員)演奏、曲は「故郷の人々」「ヘイ・ジュード」「河は呼んでいる」「パリのアメリカ人」「七つの子」「オー・シャンゼリゼ」「ステンカ・ラージン」「舟唄」「ユーモレスク」「ひとりぼっちの羊飼ひ」「Yesterday, When I'm Sixty Four」「LA PETIET VALSE」【重奏】は「シヨパンのワルツ」(カリプソアレンジ) 【アンサンブル】は「昴」(フルートとアコ伴奏)



【その他】二胡独奏「アメイジンググレイス」 【ゲスト】山田千賀子さん(ソプラノ独唱/伴奏：森陽介講師)「宵待ち草」「カーネーション」

【講師演奏】森陽介氏「2つのロシア民謡」

仲間が2人増えたのでこれから楽しみです。

♪音楽センターアコーディオン中部土曜教室「☆サタデーナイトコンサート☆」ぶらり訪問記♪

2019年3月23日(土)17:00開演 音楽センター地下ホール



2年ぶりのコンサートです。練習日が土曜日ということ、練習会場が新大久保なので勤め人には人気のある教室でした。生徒の

年齢が若く生きの良い反面、仕事の関係などで入れ替わりもあるようです。写真はアンコールで演奏した「ハンガリー舞曲」の様子。指揮は関英昭講師

【独奏】の演奏曲は「ドナウ河のさざなみ」「スケーターズ・ワルツ」「枯葉」「茶色の小瓶」「いつでも何度でも」「スノーバル・ミュゼット」「オーバー・ザ・レインボー」「パリのいたずらっ子」「ロコへのバラード」

【合奏】「ピアソラのロマンス」「小さな喫茶店」【ゲスト】山田千賀子さん(ソプラノ独唱/伴奏:森陽介講師)「宵待ち草」「カーネーション」【講師演奏】(1)関英昭氏「となりのトトロ」「白い自転車」他

(2)森陽介氏「ジノが七弦ギターを弾いている」

合奏を最後に持って来るプログラムになったのは、勤務の関係で開演に間に合わない仲間もいるので、司会の説明でした。



♪あいアイパーティー「障害者アート&中国茶&中国国家機密変幻」ぶらり訪問記♪

2019年4月1日(月)13:30開始 川越やまぶき会館ホール(埼玉県)

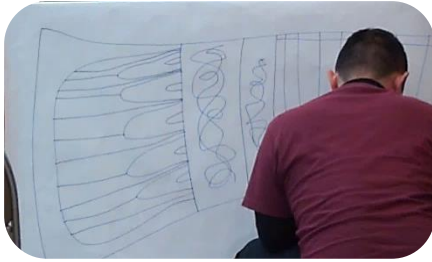
前号、音楽「広島・土本アコーディオントリオ」と絵画「埼玉・川越の町を描く」のコラボレーションの中で、小さな画伯のパフォーマンスを紹介しました。そのときは時間の制約があって大まかなデッサンで終わっていました。その描きかけの作品を持ち帰り仕上げた作品を、1カ月後の4月1日(土)のあいアイパーティーで披露するというので、仕上がりを楽しみに出かけてみました。右の写真が完成した姿です。



3月3日に描いたデッサンの様子

モデル
磯村みどり氏
作者(小さな画伯)
岩崎壺裕さん





◀3月3日デッサン中の様子
作者（小さな画伯）青木正臣さん



モデル：土本義博氏（楽器の色は青）

完成画

余談ですが、4月1日の“あいアイパーティー”で「書によるパフォーマンス」等があったので紹介します。年齢は30~40代だけれど知能は就学前の段階のため1人で1文字書き上げることは無理なので1人1画ずつ担当することで書き上げるパフォーマンスです。大筆を使える人は大筆で、大筆が難しい人は中ぐらいの筆を使います。書の文字は「花」（草冠を2つに分けて全体で8画にして書いている）



進行役は青木正臣さん（アコーディオンの作者）青木さんはひらがなは読むことができるので、お母さんがひらがなで書いた司会原稿を読み上げて進行を務めていました。



8人で仕上げるので、自分の番が来るまでじっと待たなければなりません。これが結構難しいようで、理事長の栗田さんは大丈夫かなと心配だったといいますが、1画書く

仲間を覗き込むように見つめる真剣なまなざしが印象的でした。



その後は、日本舞踊と書「さくら・さくら」ということで、金屏風の前に置かれた「花」をバックに天津流師範・天津龍つ弥さんの踊り（演目は、日本古謡「さくら・さくら」）に合わせて栗田理事長が着物に歌詞を描きしたためのパフォーマンスを披露。



他に、池内巴里氏の「中国茶表演」、王文強氏の「中国機密変面」また、NPO 法人あいアイを日頃から支援しているデヴィスカルノ夫人の挨拶などもありました。展示された多数の絵画を観賞し会場を後にしました。（記：乙津）